

令和元年度第2回外国人技能実習機構評議員会 議事要旨

- 1 日時 令和2年1月22日(水) 13:00~14:45
- 2 場所 ベルサール田町 Room5
- 3 出席者 多賀谷評議員(議長)、上林評議員、野村評議員、石田評議員、川野評議員、奈良評議員、湊元評議員、佐久間評議員、酒向評議員

4 議題

- (1) 令和元年度業務実績について
- (2) 令和2年度の新たな取組について
- (3) その他

5 議事概要

- (1) 事務局から前回の評議員会での意見に対する取組として、業務統計の公表、技能実習計画認定申請に係る簡素化、実地検査業務の強化、技能実習制度の基本的な仕組みの理解を目的としたリーフレットの配布、技能実習生向けのアプリ開発に係る動向等について説明が行われた。
- (2) 事務局から資料について説明が行われた。
- (3) 評議員からは、
 - ・ MOCに基づく二国間の枠組みというのは政府間のものであるが、機構も主務省庁との間で情報共有を密に行うべきではないか。
 - ・ 実地検査において指導したことによって、どのように改善がされ、その後のフォローがどうなっているのか。
 - ・ 実地検査担当者への研修の強化、専門性の強化に引き続き務めてほしい。
 - ・ 技能実習制度に、どのような課題があって、どのように受け止め、どのように改善されるのか教えてほしい。また、機構から主務省庁に対し、制度面の課題に係る改善要望を出すことができるのか。
 - ・ 職員により指導内容が違っていると良くないので、指導内容の情報共有をしてはどうか。
 - ・ 技能実習制度の適正な運営に機構が役に立っている点について、説得力がある説明を一層行うべきではないか。
 - ・ アプリの開発に一定期間要することだが、せっかく良いものであるのので、一部でもスピーディに行い、後に機能を充実していくという方法も考えられる。具体的なコンテンツとしてどのようなものを想定しているのか。
 - ・ 機構アプリの内容について、他の企業等で利用されている内容も参考に開発すべきではないか。
 - ・ 技能実習生が様々な不正に巻き込まれないためには、技能実習生が居住す

る地域の人々が技能実習生に関心を持つことが重要であり、そのため実習生と地域の人々との交流がなされると良いが、交流を実効性あるものにするためには、技能実習生に教えるだけでなく、私たちが技能実習生から学ぶ、双方向で学びあうという形にすべき。

- ・ 建設業の場合、実習先は基本的に元請けの責任下にある現場となるが、元請けへの指導手法について教えてほしい。
- ・ 建設分野において、建築キャリアアップシステムへの登録等が新年度から求められるところ、機構はどのような形で指導していくのか。
- ・ 国際建設技能振興機構は受入先を機構の現地検査のように巡回指導しているようだが、同機構との連携は検討されているのか。
- ・ 特定技能の登録支援機関と監理団体が重複している事案が少なくないと思われるが、重複している監理団体について、監査や指導を行う場合、留意している点はあるのか。
- ・ アプリ開発はもう少し早くできるのではないか。また、情報の階層が深くなると、閲覧されなくなるという可能性もあるので、上手な作りこみをして、なるべく早く完成させてほしい。
- ・ 建設キャリアアップシステムにより、登録の有無や賃金振込み状況確認のため、資金移動業者の口座を確認する必要があるなど、機構のチェック項目が一層増えて業務が大変になるのではないか。
- ・ 監理団体及び実習実施者に対して、3分の1程度を超える数を指導しており、件数が相当多いという印象があるが、多くは技能実習生の待遇に係る問題事案ではないと思うが、具体的にどのようなものがあるのか。
- ・ 母国語相談の内容と指導監督の違反内容が連動していないように見えるので、検証する必要があるのではないか。
- ・ MOC 締結国に中国が入っていないが、中国の自国民送出しの歴史は長く、システムとしても定まったものがあるので、他国との MOC を引用し締結するのではなく、中国特別枠の MOC を締結することは考えられないか。
- ・ 困難時届出において、適切に分析すべきではないか。

等の意見及び質問があり、これに対し、事務局から説明が行われた。